に入っての地産地消であり、ファーマーズマーケットやCSA（Community Supported Agriculture：地域支援型農業）によって展開されてきた。そして2008年に歴史上はじめて、都市の人口が地方の人口を上回るようになったことで、これまでの食料は農村が都市のために生産するという構造の限界が見えてきた。あらためて「食料の調達方法」を考える第三の波が到来しつつあり、「結局、都市生活者である私たちは、すべてを都市の中で調達しなければならないのだ。そのため、食料生産も考慮して都市のあり方を見直す活動が始まっている。食料を生産するために必要な、土地、水、労働力などの資源は、都市の中にも存在する。都市で食料を生産すれば、流通距離を短縮できるのだ。食料生産を考慮に入れて都市を再設計することで、新たな可能性も開かれるだろう。」

そして今、「パリのシャンゼリゼ通りを封鎖して開催したイベント、ロンドンの再開発地域におけるワイン製造、スーパーマーケットの屋上農園、自宅の裏庭をフル活用した野菜の生産、小さな農地でも採算のとれる農法の開発、裏庭で育てる採卵鶏、スラム街でコミュニティをつくる農園、家庭が放置した果樹を採集するボランティア、都市農業セレブと呼ばれるようになった元バスケットボール選手、財政破綻したデトロイト市の再生をめざす実業家、四階建ての元家畜処理場を再利用したシカゴの垂直農場など」、世界の都市でそれこそ多様な都市農業が展開されている状況にある。

以上が『シティ・ファーマー』の本稿に関連してのポイントの概要であるが、著者が最も都市農業に期待しているのは食料安全保障であり、「自分で食べものを生産することこそが質素であっても時間をかけた楽しみ」であり、「地域コミュニティをつくっていく方法」でもあるとしている。そして都市農業の増加によって、「食料生産を考慮に入れて都市を再設計すること」が必要とされる情勢にあることが強調されている。

わが国では、都市農地の維持、税等制度の見直しに重点が置かれてきただけに、都市農業の内容なり質についての議論は軽視されがちであった。時代とともに都市農業の意義や質が変化してきたことを示す本書に教えられるところは多い。

日野市のせせらぎ農園、市民フェア

そこで都市農業の内容・質を考えさせてくれる国内の事例二つをあげておきたい。

はじめが東京都日野市での取組みである。日野市は東京都の西部、立川市の西どなりに位置するが、市の北部を多摩川、中央部を浅川が流れており、住宅が広がる中に、水田とともに樹林地や湧水も残されている。水田に用水が網の目のように張り巡らされている一画にせせらぎ農園はある。せせらぎ農園の基本コンセプトはコミュニティガーデンで、「身近な空き地や既存の緑地を住民の手で美しい庭（畑）に変え、安全で緑豊かな美しいまちを創造していく協働の庭づくり活動」を目指している。08年にオープンしているが、ごみ改革における市民と行政の協働がきっかけとなって発足したもので、約200世帯から出る生ごみを約2100平方㍍の農園でたい肥化し、そこで農作物や花卉を栽培している。約20人が援農しており、生産された農産物等は援農に参加した人たちに分配されている。基本的には誰でも、いつでも好きな時間帯に参加することができるようになっており〝地域の庭〟〝地域の畑〟であるとともに、〝触れ合いの場〟〝みんなの居場所〟となっている。

一方で、こうした取組みと併行して「市民による都市農業研究会」を発足させて、日野市内外の都市農業に関心のある市民、環境団体、大学関係者、市会議員等の多様なメンバーを集めて、農地法、都市計画法等の勉強会、現場見学、農地活用実態調査等の多彩な活動を展開している。

このような流れの中で、協同して「だいすき日野市民フェア実行委員会」を設けてフェアを開催しており、そのメインとなるのが炊出し食事会である。市民はマイ食器、マイはしを持参して会場に集まり、薪と釜を使っての炊出しを体験したうえで、参加者が顔を合わせて炊きたてのご飯を食べる。薪は街路樹等を切って乾燥させたもの。水は湧き水。味噌汁の具は近隣の畑から調達したもので、これに各家庭での米備蓄がセットで位置づけられている。まさに災害時の備えを訓練する場であると同時に、市民と都市農業者との絆づくりとなっている。

横浜みどりアップ計画市民推進会議

もう一つが横浜市の都市農業を含む緑の環境を生かし、後世へ引き継いでいくための「横浜みどりアップ計画」の実施と、これにかかる施策および事業についての評価と情報提供を行う「横浜みどりアップ計画市民推進会議」の設置とその活動である。本計画を実行していくための財源として市民税に上乗せして別途、年1人当たり900円の「横浜みどり税」が徴収されている。09年にスタートさせ、既に5年間の第1期が終了し、第2期目に入っているが、第2期の三つの取組の柱は、①市民